

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート（案）

学校名（ 三重県立稲葉特別支援学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の教育的ニーズに対応できる高い専門性と信頼性を備え、常に児童生徒を主人公にしながら進化する特別支援学校</li> </ul>
育みたい児童生徒像		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校生活を通して、人と楽しく関わり、自分のできることを増やし、社会の一員として自立に向けた確かな力を身につけている。</li> <li>○ 卒業後の姿を具体的に描き、その実現に向け、さまざまな経験を通して、主体的に自分の課題に取り組んでいる。</li> <li>○ 基本的な生活習慣が身につく、仲間とともに、健康の増進と体力の向上に取り組んでいる。</li> <li>○ 自他を大切にできる心情や行動力を身につけている。</li> </ul>
ありたい教職員像		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員一人ひとりが特別支援教育の実践に誇りを持ち、学習指導や校務運営等に積極的に参画している。</li> <li>○ 中勢地区における特別支援教育のセンターとしての機能を高め、地域への支援や情報発信を積極的に進めている。</li> <li>○ 児童生徒の成長を通して達成感や充実感が共有できるよう職場環境の充実に努めている。</li> <li>○ 対話を通じて「チーム稲葉」として協働に取り組んでいる。</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈児童生徒〉卒業後に社会の一員として自立できる確かな力を育ててほしい。</p> <p>〈保護者〉子どもの教育的ニーズに応じた教育を実践し、生きる力を伸ばしてほしい。</p> <p>〈関係機関〉子どもたちや家庭の課題、あるいは子どもたちの進路について、学校と連携しながら取り組み、解決を図りたい。</p> <p>〈地域〉特別な支援の必要な子どもたちへの指導について、専門的な支援をしてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉子どものニーズに応じた教育を実践し、子どもの力を伸ばしてほしい。</p> <p>〈関係機関〉子どものニーズに関して緊密に連携し、ネットワークづくりや学校からの発信を期待している。</p> <p>〈地域〉障がいのある子どもたちの教育について、専門的・具体的な指導・助言を行ってほしい。地域の中の学校として、地域とのつながりを大切にしたい。</p>	<p>〈保護者〉学校と家庭の連携のもとに、子どもたちへの指導を協力して進めていただきたい。</p> <p>〈関係機関〉ネットワークを通じて、子どもや保護者の生活を支えてほしい。子どものニーズに応える職場環境の確立に協力していただきたい。</p> <p>〈地域〉障がいのある子どもたちへの適切な指導及び必要な支援の充実に取り組んでほしい。地域の中の学校として、本校の子どもたちへの理解や、本校との連携を図ってほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在も行われているが、小さい頃から、小、中、高・・・という切れ目のない支援が重要である。小さい頃は地元とのつながりが強いが、だんだんと薄れていく。</li> <li>・防災面で地域的に夜間暗く、休日の出入り等から灯りを増やす等の対策で車へのいたずらが減る等の効果があった。具体的な機器や設備等による防犯対策も課題である。</li> <li>・避難訓練は、想定を変える。避難の次に考えられる引き渡し訓練等にも取り組んでいく必要がある。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の障がいの多様化により、医療機関等との連携が必要となる児童生徒が増加している。また、家庭での養育上の課題等により、福祉関係機関等との密接な連携が必要な児童生徒も増加している。</li> <li>・就労希望者が増加しており、さらなる進路先の確保とともに就労に着実に結びつく技能や態度等を身につけさせることが求められている。また、「生きる力」を育むため、キャリア教育の視点で授業改善を進めていくことが求められている。</li> <li>・人と関わることを苦手とする児童生徒が多く、社会性を多様な方法で、具体的に身につけさせることが求められている。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の施設・設備が老朽化してきているので、児童生徒にとって安全・安心な環境を確保するため、施設・設備の改修・更新が必要となっている。また、大規模災害時の児童・生徒及び地域住民の避難場所となることを想定し、「避難所」機能の整備を進めるとともに、地域との具体的な連携が課題となっている。</li> <li>・地域における特別支援教育のセンター的機能を発揮し、特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの教育指導や情報発信等に力を発揮することが求められている。</li> <li>・教職員の「仕事へのやりがい」は高いが、情報共有、会議運営、過重労働時間削減等の職場環境の整備に関する具体的な取組課題もあり、労働安全衛生の向上が求められている。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒や保護者の思い、地域や関係機関及び産業界等の期待をしっかりと把握し、小学部から高等部までの一貫したキャリア教育を推進する。</li> <li>・高等部における職場実習を活用したデュアルシステムの充実と進路指導の一層の推進を図る。</li> <li>・保護者や医療、福祉、労働等の関係機関と連携して、引き継ぎツール等を活用しながら、一人ひとりに応じた教育指導を進めると共に、児童生徒の自尊感情を育てる。</li> <li>・キャリア教育プログラムを活用した授業改善を推進する。</li> <li>・地域の学校との交流及び共同学習を幅広く展開し、人権教育を推進する。</li> <li>・日々の児童生徒の「生きる力」の基盤となる体力作りを推進する。</li> <li>・自他のいのちを大切にし、社会性を身につけさせるため、具体的な指導を継続して進める。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の専門性を高めるため、研修機会の充実に取り組む</li> <li>・学習指導要領の改訂に対応し、教育課程や学習指導の改善・充実を行うとともに、それを実現するために必要となる環境整備を計画的に進める。</li> <li>・地域に開かれた特別支援学校としての果たすべきセンター的役割を明確にし、地域の学校等への支援や情報発信を充実させるとともに、授業実践の公開等を行う。</li> <li>・防災・危機管理の想定域を広げながら、「想定外」の事態の一層の縮減に努め、より具体的、実践的な防災訓練、危機管理対応訓練等を地域や関係機関と連携しながら実施し、組織及び教職員一人ひとりの対応力の向上に取り組む。</li> <li>・「チーム稲葉」として学校の「進化」に積極的に協働できるよう、情報の発信や共有等を進める。</li> <li>・一人ひとりの教職員が、各自のワークライフバランスの充実を念頭に勤務時間内での業務遂行に取り組めるよう、働きやすい環境づくりを行い、過重労働の削減に取り組む。</li> <li>・保護者や関係機関等と連携して、個に応じた教育の充実と授業参観の機会の拡大等を進める。</li> </ul>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
キャリア教育の充実	<p>(1) キャリア教育プログラムにもとづき、小学部から高等部までの一貫した教育を進める。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育プログラムに関連づけた個別の指導計画の作成</li> <li>・キャリア教育プログラムの内容を指導案目標に明記し、卒業後の姿を意識した授業に取り組む。</li> <li>・高等部では、校内実習 1 年生 3 回 2 年生 1 回 3 年生 1 回/年 現場実習 1 年生 1 回 2 年生 3 回 3 年生 1 回/年 企業見学、進路懇談会、移行支援会議の実施 パートナーシップ見学会・講演会の開催 現場実習について、実習の前後に目標の設定、反省を行い、生徒の将来の生活に対する意識を高める。実習先への巡回を通じて、生徒の適性を知り、生徒自身の進路決定のための助言、支援を行う。</li> <li>・寄宿舎では、卒業後を見据えて、社会性を育み、自立の力を高めることを目標としている。・寄宿舎生活で基本的な生活習慣や家事能力の力を身につける。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b>職員のアンケートにおいて、「日常の授業や取り組みでキャリアプログラムを意識した」が「60%以上。</p> <p>(2) 環境整備</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働関係機関等とも連携し、実習の受け入れ先や就労先の開拓・充実を図る。</li> <li>・図書室に本校のキャリア教育に関する書籍コーナーを設置し、自由に閲覧できる環境を整備する。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b>卒業 1 年後の仕事定着率 70%以上。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>※</p> <p>◎</p>
交流教育の充実	<p>(1) 地域の学校や関係機関との交流及び共同学習</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部：学校間交流 4 回/年。メッセージ交流 1 回/年。</li> <li>・中学部：学校間交流 3 回/年。</li> <li>・高等部：毎月第一木曜の昼休みに「しゃべり場」を開催するとともに、校外に交流先を拡大する。</li> <li>・小・中・高等部：希望者を対象とした居住地校交流の実施。</li> <li>・寄宿舎：久居農林高校、近隣作業所との交流 2 回程度/年。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b>交流及び共同学習について、交流相手校児童生徒の肯定的な意見 80%以上</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>※</p>

<p>体力づくりの 推進</p>	<p>(1) 基礎体力の増進 【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部:からだタイム(週4日)を2限目を実施し、サーキット活動や校内歩行、リミックで基礎体力作りに取り組む。</li> <li>・中学部:毎日2時間目を「朝の運動」の時間と位置づけ、リミックや10分間走に取り組み、記録会を年1回実施する。 また、学級活動でも校外歩行に取り組み生徒の基礎体力の増進に努める。</li> <li>・高等部:いなば園の園周(1km)を3周走る持久走を毎日実施する。 持久走記録会 2回/年</li> </ul> <p>(2) 食・健康・保健の授業 【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する授業の実施。 小学部:3回、中学部:学部2回・各学年2回、 高等部:各学年3回/年。</li> <li>・保健に関する授業の実施 小学部年2回。 中学部年2回。 高等部各学年年2回。</li> <li>・家庭との連携 年度当初・後期休業日(夏期・冬期)前に、体力づくりを含めた生徒指導のプリントを家庭配布。</li> <li>・寄宿舎において、規則正しい健康的な生活を送り、体力の向上に努める。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種記録会において、子どもがそれぞれの目標を60%以上達成する。</li> <li>・食や健康に対する児童生徒の関心が高まる。</li> </ul>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>◎</p>
<p>社会性の伸 長</p>	<p>(1) 命を大切にする教育 【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部:自他の命の大切さを意識できるような授業年1回以上</li> <li>・中学部:学級活動などを中心に命を大切にしていける学習</li> <li>・小中学部:交通安全教室の開催</li> <li>・高等部:薬物乱用防止教室の開催</li> </ul> <p>(2) 集団のルールやマナーを学ぶ 【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部:課題学習の時間や校外学習などの事前学習を通して、社会生活を営む上で、培っていかねばならないマナーやルールについて学習する。</li> <li>・高等部:総合学習や社会生活の授業を通して、生徒の社会性の向上に取り組む。 外部講師による授業年3回。 校外学習等年3回。</li> <li>・寄宿舎:一人ひとりの子どもの特性に応じて、挨拶や掃除、当番活動の取り組みを行う。</li> </ul>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>※ ◎</p>

	<b>【成果指標】</b> ・各自が他者とのかかわりを増やすことができる。 ・気持ちのよい挨拶ができる。		
<b>改善課題</b>			
(年度末に記載)			

## (2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
専門性の向上	(1) 計画的な研修会の実施 <b>【活動指標】</b> ・学部内での授業検証を年間3回実施し、改善案を検討する。 また、学部を越えた研修の機会を持ち、学校全体として授業について研究・検討を行い改善に取り組む。 ・本校のニーズに合った外部講師を招いて全体研修会を年1回開催する。 ・学部研修では、年に2回各学部の交流を図る機会を持つ。 ・寄宿舍:研修会 1回/月 薬の研修 1回/学期 嘔吐時における処理と対応についての研修1回/年 個別の指導計画を作成検討し、日々の指導に生かす。 ・はっぴーの一とと、パーソナルカルテの活用促進方法の周知のための職員向け研修会の開催 ・プロフィールや個別の支援計画を活用し、実態把握に努める。 <b>【成果指標】</b> 授業に対する保護者の評価で「よい」が80%	(年度末および適宜記載)	◎
開かれた学校への展開	(1) 授業公開、学年・学部懇談会、学校見学会等の実施 <b>【活動指標】</b> ・保護者による授業参観3回/年、学年懇談会2回/年、学部懇談会1回/年、保護者研修会1回以上/年 ・センター的機能として、学校見学会(寄宿舍見学有り)、地域支援研修会を実施。 ・いなば園との連絡会1回以上/年。 ・全員支援会議体制の確立。 ・学校祭では、開閉会式、舞台発表の保護者入れ替え制を行い、来ていただいた方々に、できる限り、快適にかつ公平に発表を見ていただけるようにする。 (2) ホームページによる情報提供 <b>【活動指標】</b> 学校ホームページの更新 月1回以上。 <b>【成果指標】</b> 学校の様子がわかると回答する保護者の割合60%	(年度末および適宜記載)	※

危機管理の充実	<p>(1) 定期的な訓練の実施</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバス運行中の災害を想定した、ハザードマップの更新と、スクールバス避難訓練 1回/年</li> <li>・不審者対応訓練 1回/年</li> <li>・児童生徒、教職員が、命を守るための実践力を身につけるための防災訓練、交通安全教室 2回以上/年</li> <li>・寄宿舍：避難訓練 3回/年 不審者対応訓練 1回/年。 職員対象訓練（発作対応）（失踪時対策）</li> </ul> <p>(2) 緊急時の保護者連絡</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心メールを活用した保護者への緊急連絡。</li> </ul>	(年度末および適宜記載)	◎
働きやすい環境づくりの推進	<p>(1) 総勤務時間の縮減</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退校日を月に2日。(毎月第1及び第3金曜日)</li> <li>・部活動休養日を週に1日以上。(うち1日は土日いずれか)</li> <li>・放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合60%以上。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外労働時間1時間/月削減。(前年度比15%以上)</li> <li>・休暇取得日数1日/年増加。</li> <li>・月80時間を超える時間外労働者を延べ人数12人削減。</li> </ul>	(年度末および適宜記載)	※
<b>改善課題</b>			
(年度末に記載)			

## 5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
--------------------	----------

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)